

# 市町村公民館・交流センター 事業関係者等研修会

本研修会は、公民館事業に関わる人等を対象に、公民館が持続・発展するために、学校や他の団体、行政、企業等との連携の良さや取り組み方について知識・理解を深め、公民館・交流センターの活性化に向けた実践に活かすことができるようにすることを目的に開催しました。管内の公民館・交流センター事業に携わる関係者17名が参加し、一緒に学びを深めました。

## 研修1 <実践発表> 「飯塚市熟年者マナビ塾」

飯塚市教育委員会 生涯学習課 中央公民館・図書館係 係長 吉原 康展 氏

飯塚市では、高齢者が活力を保全し、元気で社会に必要とされる高齢期を過ごすこと、併せて、児童の健全育成、学校の活性化、特色ある学校づくりを目的に、「飯塚市熟年マナビ塾」を実施しています。

この「飯塚市熟年マナビ塾」は、平成16年に飯塚市内5つの小学校で始まり、今では市内17校で行われています。高齢者が小学校の空き教室を利用し、学校の授業時間に合わせて「自主学習」と「学校支援活動」を行っています。

「自主学習」では、体操や脳トレ、パズルなどを通じて高齢者の健康促進を図るとともに、参加者同士の交流を深める「つながりづくり」の場を提供しています。一方「学校支援活動」では、活動場所である小学校の児童を対象に、九九の聞き取り練習やミシン操作、手芸の指導などを行っています。これらの児童との活動が、参加者に自己の有用性を実感させ、「生きがいづくり」にもつながっています。

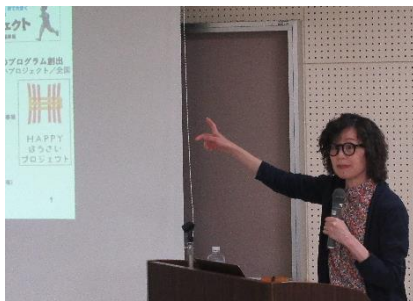
また、児童・学校側にとっても、個別対応のきめ細やかな指導の強化が可能になるだけでなく、異世代交流を通じて児童のコミュニケーション能力の育成にも寄与しています。

この取組は、高齢者と児童や学校、さらには地域全体にとって「Win-Win」の事業といえます。学校教育と社会教育が連携・融合した好事例として、非常に意義深い発表でした。



## 研修2 <講話・演習> 「公民館が持続・発展するために」

特定非営利活動法人 ふくおかNPOセンター 代表 古賀 桃子 氏



古賀氏による講話では、学校や他の団体、行政、企業等、(以下、多様な主体)と連携することの良さや取り組み方について御教授をいただきました。まず、多様な主体と連携する良さは、公民館・交流センター単体で事業を行うよりも、より多くの「ひと・もの・こと・お金・時間」を得ることができることです。参加者は、①企画のターゲットとなる住民のニーズをつかむこと、②すでに地域にあって、生かせそうな「ひと・もの・こと」に着目した企画書づくりにより、「参画・協力を得たい多様な主体」が明確になることを学んでいました。

また、参加者は、演習において、自身の担当事業について、事業計画書を作成しました。特に上記の①、②を意識し、参画・協力を得たい多様な主体との連携・協働について考えることができていました。

さらに、交流の時間を設け、他の市町村職員と作成した企画書について意見交流をしました。参加者たちは、他市町村が、すでに行っている多様な主体との連携・協働の取組や、これから参画・協力を得たい多様な主体との連携・協働の可能性について熱心に交流していました。

参加者にとって本研修会は、公民館・交流センターが持続・発展するため、現在実施している事業や企画を見直す、充実した研修会となっていました。



### 【参加者アンケートから】(抜粋)

- 実践発表は、地域と学校のつながりができている事例があることが参考となった。
- 自分自身が今後どのように事業を計画していけばよいかのポイントが分かった。もう一度、自分の公民館事業をすべて見直したい。
- 演習での企画・立案、交流の時間は、次年度の企画立案に向けての良い機会になりました。